

<p>平成29年 3月24日</p>	<h1>病害虫発生予報</h1> <h2>4月号</h2>	<p>茨城県病害虫防除所 茨城県植物防疫協会</p>
------------------------	-------------------------------	--------------------------------

農作業事故が増加する季節です
～転落・転倒・巻き込まれに要注意！～

＜ 目 次 ＞

<h3>I. 今月の予報</h3>	
<p>【注意すべき病害虫】</p>	<p>イチゴ：ハダニ類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1</p> <p>促成トマト：灰色かび病・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1</p>
<p>【その他の病害虫】</p> <p>イチゴ，促成ピーマン，半促成ピーマン，促成トマト，促成キュウリ， 春ハクサイ，春レタス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2</p>	<p>【防除所レポート】</p> <p>チャバネアオカメムシの越冬状況（平成29年2月調査）・・・・・・・・ 3</p>
<p>II. 今月の気象予報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6</p>	
<p>最新の農薬登録内容は，（独）農林水産消費安全技術センターホームページの 「農薬登録情報提供システム」（http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm）で 確認することができます。</p>	
<p style="text-align: center;">詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。 茨城県病害虫防除所 Tel : 0299-45-8200 予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。 ホームページアドレス http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/</p>	

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 3月下旬現在, 寄生葉率 (本年値 16.7%, 過去7年平均値 23.3%), 被害葉率 (本年値 10.0%, 過去9年平均値 21.5%) とともに平年並である。なお, 一部圃場で多発生を認めている。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので, 発生が少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は, 薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また, 気門封鎖剤以外については, 薬剤抵抗性の発達を抑えるため, IRAC コードもしくは系統の異なる薬剤を用いてローテーション散布する。なお, 薬剤散布は, 古い下葉を除去してから行うと効果的である。
- ③ ミツバチや天敵を導入している場合は, 薬剤の影響日数等に十分注意する。

促成トマト

1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 3月下旬現在, 発病果率 (本年値 0.13%, 過去9年平均値 0.23%), 発生地点率 (本年値 20%, 過去9年平均値 27%) とともに平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿の場合に発生しやすいので, 送風, 換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 花落ちが悪く残った花卉や罹病部はできるだけ取り除き, ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤は, 薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また, 薬剤耐性菌の出現を防ぐため, FRAC コードもしくは系統の異なる薬剤を用いてローテーション散布する。
- ④ 薬剤散布は, 晴れた日の午前中に行う。また, 曇雨天が続き薬液が乾きにくい場合は, くん煙剤を利用する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：平年並	3月下旬現在，平年並の発生である。
促成ピーマン	うどんこ病	発生量：やや少ない	3月中旬現在，平年よりやや少ない発生である。
	アザミウマ類	発生量：平年並	3月中旬現在，平年並の発生である。
ピーマン 半促成	斑点病	発生量：やや多い	3月中旬現在，平年よりやや多い発生である。
トマト 促成	オンシツコナジ ラミ	発生量：やや多い	3月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
促成キュウリ	褐斑病	発生量：やや多い	3月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	べと病	発生量：平年並	3月下旬現在，平年並の発生である。
	うどんこ病	発生量：やや少ない	3月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。
	灰色かび病		
	黄化えそ病	発生量：－	3月下旬現在，一部圃場で発生を認めている。
	退緑黄化病		
春ハクサイ	白斑病	発生量：平年並	3月中旬現在，平年並の発生である。
	べと病		
春レタス	斑点細菌病	発生量：平年並 ～やや多い	3月中旬現在，平年並～やや多い発生である。
	菌核病	発生量：やや少ない	3月中旬現在，平年よりやや少ない発生である。
	腐敗病		

チャバネアオカメムシの越冬状況（平成 29 年 2 月調査）

ナシ、カキ、リンゴなどの重要害虫であるチャバネアオカメムシの越冬数についての調査結果をお知らせします。

本年 2 月上旬に山林の表層土を含んだ落葉を 1 地点当たり 30 リットル採取し、チャバネアオカメムシ成虫の越冬数を調査しました。調査は常陸太田市、笠間市、水戸市、小美玉市、銚田市、行方市、石岡市、つくば市、桜川市の合計 42 地点で行いました。

その結果、越冬成虫数は平年よりやや少なく（本年値 0.2 頭、平年値 2.3 頭）、越冬地点率は平年並～やや低く（本年値 19%、平年値 41%）になりました（表）。なお、本年を含む過去 6 年間の越冬状況の推移を見ると、越冬成虫数・越冬地点率ともに多い年と少ない年を交互に繰り返しており、本年は少ない年にあたります（図）。

そのため、越冬世代成虫（4～7 月）の果樹園への飛来数は、平年よりやや少ないと予測されます。

表 チャバネアオカメムシの越冬状況（平成 29 年 2 月）

調査項目	本年値	平年値	順位※2
越冬成虫数(頭)※1	0.2	2.3	9 位
越冬地点率(%)	19	41	7 位

※1 成虫数/落葉 30 リットル

※2 本年を含む過去 11 年中の順位

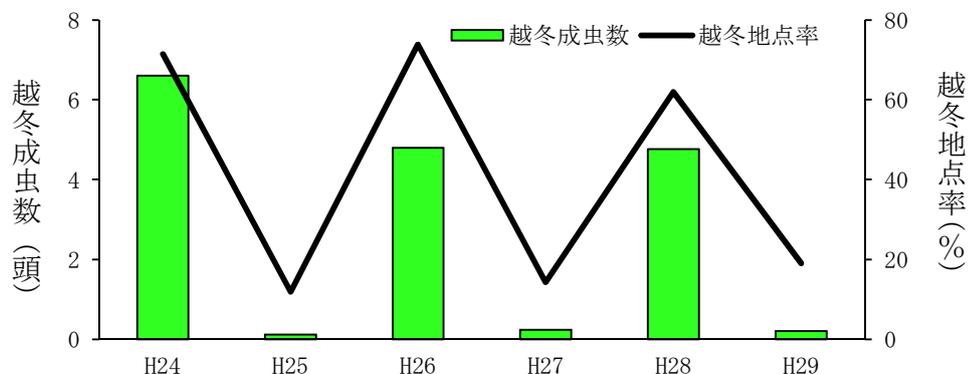
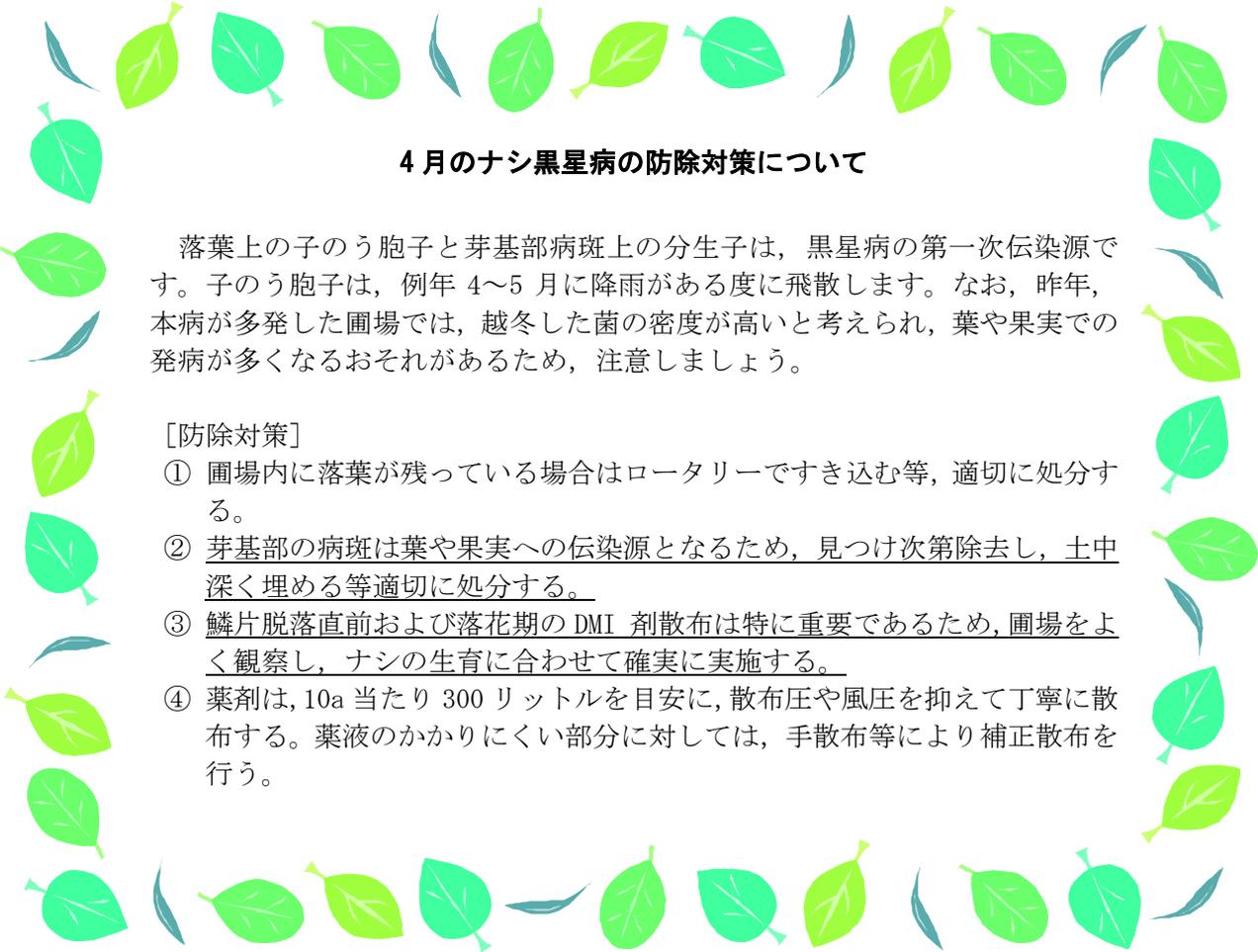


図 チャバネアオカメムシの越冬成虫数および越冬地点率の年次変動

病虫害防除所では、果樹カメムシ類について予察灯調査（4～10 月）、サクラにおける発生量調査（5～6 月）を行うので、今後発表する情報に注意してください。



4月のナシ黒星病の防除対策について

落葉上の子のう胞子と芽基部病斑上の分生子は、黒星病の第一次伝染源です。子のう胞子は、例年4～5月に降雨がある度に飛散します。なお、昨年、本病が多発した圃場では、越冬した菌の密度が高いと考えられ、葉や果実での発病が多くなるおそれがあるため、注意しましょう。

[防除対策]

- ① 圃場内に落葉が残っている場合はロータリーですき込む等、適切に処分する。
- ② 芽基部の病斑は葉や果実への伝染源となるため、見つけ次第除去し、土中深く埋める等適切に処分する。
- ③ 鱗片脱落直前および落花期のDMI剤散布は特に重要であるため、圃場をよく観察し、ナシの生育に合わせて確実に実施する。
- ④ 薬剤は、10a当たり300リットルを目安に、散布圧や風圧を抑えて丁寧に散布する。薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

作物分類表の一部改正について

農薬登録における適用作物名は、「『農薬の登録申請に係る試験成績について』の運用について」の別表 1-1 及び別表 1-2 に掲載されています。

平成 29 年 2 月 24 日にこの運用が改正され、別表 1-1 及び別表 1-2 の適用作物名等が一部改正されました。

【改正の概要】

- ・ 別表 1-1, 1-2 の果樹類, 野菜類, 飼料作物, 花き類・観葉植物, 樹木類について、「作物名」及び「作物名に含まれる別名, 地方名, 品種名等の例」が追加されました(下表)。
- ・ 樹木類については、中グループ名(まつ類, かし類等)も追加されました。

表 「別表 1-1」における変更の例(なばな類の場合)

大グループ名	中グループ名	作物名	作物名に含まれる別名, 地方名, 品種名等の例	備考
野菜類	なばな類	おおさきな	大崎菜, 芹田菜	茎葉及び花蕾を収穫するもの
		オータムポエム	アスパラ菜, 愛味菜	
		大月菜		
		かきな	かき菜, 宮内菜, 宮崎菜, CO菜, 川流れ菜, 五月菜, 芯切菜	
		こまつな(なばな 的栽培)		
		四川児菜	子持たかな, 祝蕾	
		たべたい菜		
		チーマデラーバ		
		はくさい(なばな 的栽培)	ふくたち	
		めいけな	女池菜, 新潟なばな, 角田冬菜, 新潟小松菜	

『農薬の登録申請に係る試験成績について』(平成 12 年 11 月 24 日付け 12 農産第 8147 号農林水産省農産園芸局長通知)の運用について(平成 13 年 10 月 10 日付け 13 生産第 3986 号農林水産省生産局生産資材課長通知)の別表 1-1(平成 29 年 2 月 24 日現在)より作成した。

変更のあった作物名のみ示した。下線部は改正により追加となった部分を示す。

【参照先】

- ・ 詳しい改正内容は、茨城県病害虫防除所ホームページに掲載した新旧対照表をご参照ください。
- ・ また、改正後の別表 1-1, 1-2 の全体版は(独)農林水産消費安全技術センター(FAMIC)のホームページに掲載されています。
<http://www.acis.famic.go.jp/shinsei/sakumotuhyou.htm>
- ・ なお、別表 1-1, 1-2 については 4 月中旬に再度改正が予定されていますので、上記 FAMIC ホームページにより最新の情報を確認してください。

II. 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 3月25日から4月24日)

気象庁 (3月23日 発表)

< 向こう 1 か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	40	40	20
	降水量	関東甲信全域	50	30	20
	日照時間	関東甲信全域	20	40	40

[概要]

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

< 1 週目の予報 > 3月25日(土曜日) から 3月31日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年より低い確率 50%

< 2 週目の予報 > 4月1日(土曜日) から 4月7日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 50%

< 3 週目から 4 週目の予報 > 4月8日(土曜日) から 4月21日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、異なる作用機構分類※(FRACコード, IRACコード)の薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については、病害虫発生予報5月号(平成28年4月28日発表)の防除所レポートを参照してください。